

須黒達巳
すぐろ たつみ

図鑑を
見ても
名前が
わからない
のはなぜか？

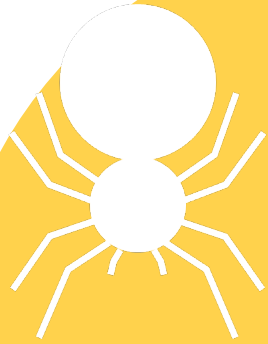
生きものの“同定”でつまずく理由を考えてみる



を書いた
のはなぜか？

須黒達巳

私と同定の関わり



専門は
クモの分類学



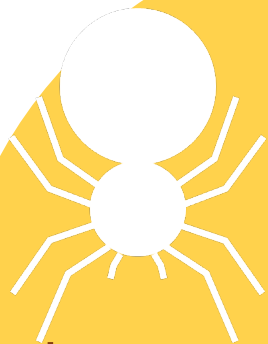
小笠原の昆虫の
同定業務を経験

勤務校構内の昆虫・クモ相の調査を継続

現在は私立小学校の
理科教員



私と同定の関わり



専門とする生物があり



専門外の同定に
挑む機会があり

未熟な人の同定を見る
機会に恵まれている



同定をめぐる、
初級者と上級者の間のギャップ

一般の方のもつ「同定のイメージ」



パラパラ、
あったこれだ！



スマホで解決！

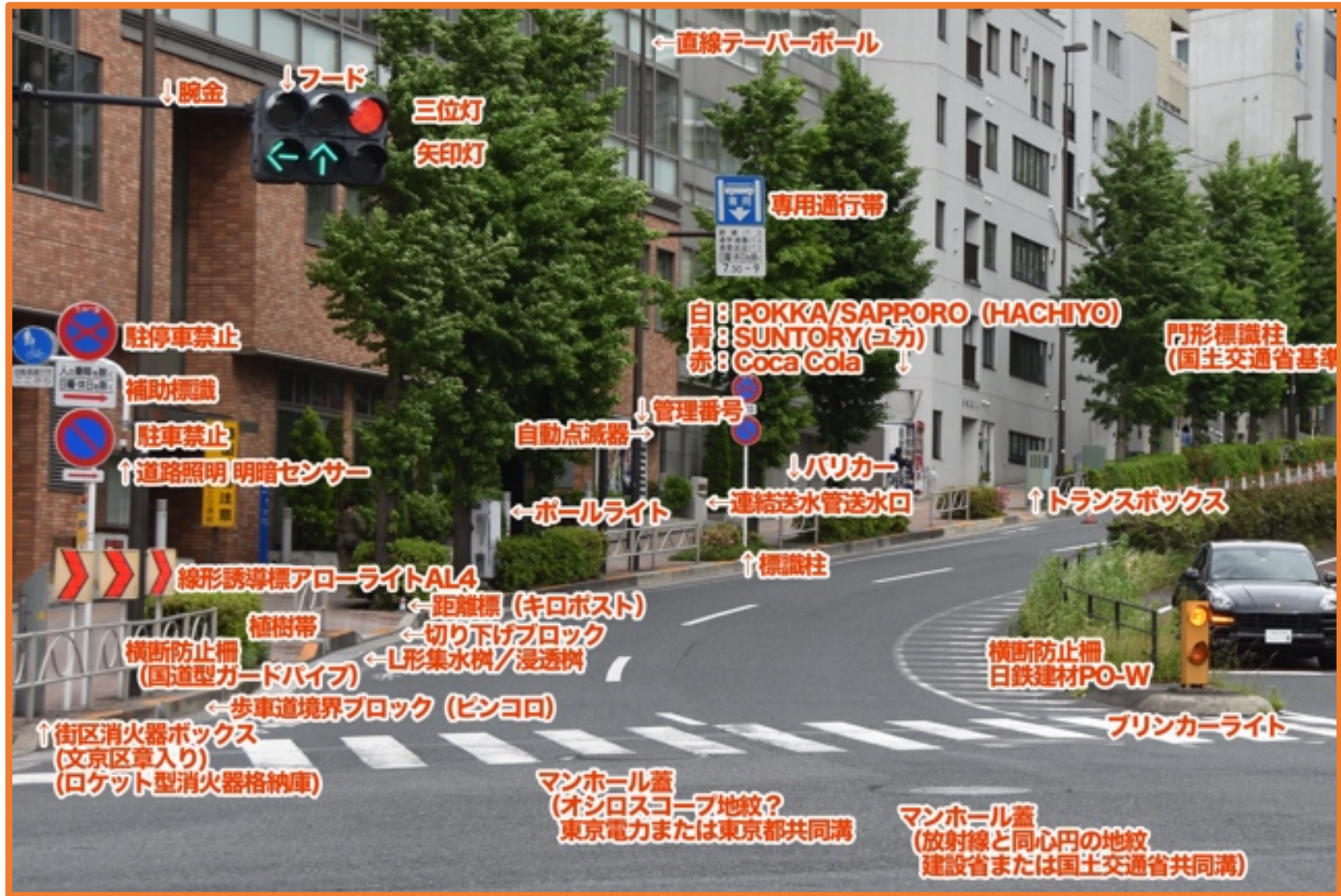
「同定ってどうもうまくできない」



生物系の研究者の中にも苦手意識？

同定って楽しいんだけどな

世界の見え方



デイリーポータルZ「目に映るものの名前を
できる限り知りたい」より

名前を知ることの快感



お前

「ムネカクトビケラ」というのか…！

執筆の動機

①一般向けに、

「ちゃんとした同定」の様子を伝えたい

②「なぜ同定ができないのか」

「どんな過程を経てできるようになるのか」
を、みんなで考えたい

そして、同定を楽しむ輪を広げたい

核となる概念

「目をつくる」

注視した経験のないものからは、情報を多く見出せない



目をつくる：対象からたくさんの情報を拾えるようになること

画像：「アパレル用語図鑑」より

目ができていないと、図鑑の説明は理解できない

石井中明朝体NKL (1970)

あたらしい明朝体なのか

リュウミンL-KL (1982)

あたらしい明朝体なのか

本明朝-L (1982)

あたらしい明朝体なのか

平成明朝体W3 (1989)

あたらしい明朝体なのか

「かっちりした明朝体」はどれ??

画像：「名刺作成.jp」より

「目をつくる」感覚を知ってもらう





著者が「目をつくる」過程を追う



検索表で苦しむ様子も紹介

中胸前側板はメスでは全体が黒色で、オスでは前部中央の黄紋を除き黒色。メスの頭盾は黒色。オスの後脚脛節は全体が黒色。メスのギモンパースは黒色。

さあこれは難しい設問です。

中胸前側板は全体または上部隅の三角形の黒紋を除き黄白色。メスの頭盾は黄白色。オスの後脚脛節は黒色で先端近くに黄色のサンダを持つ → 10



図 6-7

手元の標本は産卵鞘（腹端にある、産卵管を覆う鞘のこと）があるのでメスで、中胸前側板（図 6-7）は「黄白色で上部隅と下部 1/3 が黒色」、あるいは「黒色で中央に黄白色の太い帯」という感じです。すなわち、「10」の項目のいずれの記述とも矛盾します。したがって、「10」から「11」に進んだルートは不正解だったと考えられます。でも「18」でピンと来なかったのですね。この過程は決して無駄足ではなく、正しい同定のために

また2通り確認です。
自信なし！

他の選択肢をつぶしていくのはとても大切な作業なのです。というわけで「7」に戻り、今度は「11」へ進みます（ということは、私の標本の複眼内縁は、著者の感覚では「ほぼ直線的」だったということです）。

「ほぼ」というのがミソで、

頭部は密な皺に覆われ、光沢を欠きつや消し状 → 12

頭部の彫刻は弱く、光沢がある → 18

「11」と似たような項目ですが、今回はよりすっきりと「18」だと判断できます（図 6-6）。

中胸盾板は滑らかで、分離した点刻を密に持つ → 18

18. 中胸盾板には明瞭で密な点刻はなく、無彫刻か、弱い皺や網目構造を持つ。点刻を持つ場合は微小 → 23



図 6-8

微小な点刻があると思いますが（図 6-8）、これが「分離した点刻を密

…といった話題を扱った本です



初級者は同定の実情を
垣間見られて、

上級者や図鑑制作者は
「使いやすい図鑑」を
考える機会になれば

幸いです。